

みると、近所の人たちとの交流がある方が、また、親しい友人を沢山もっている方がその関心度が高くなっており、社会参加の状況が高齢者の中で二極化している可能性がある(図1-2-5-5、図1-2-5-6)。

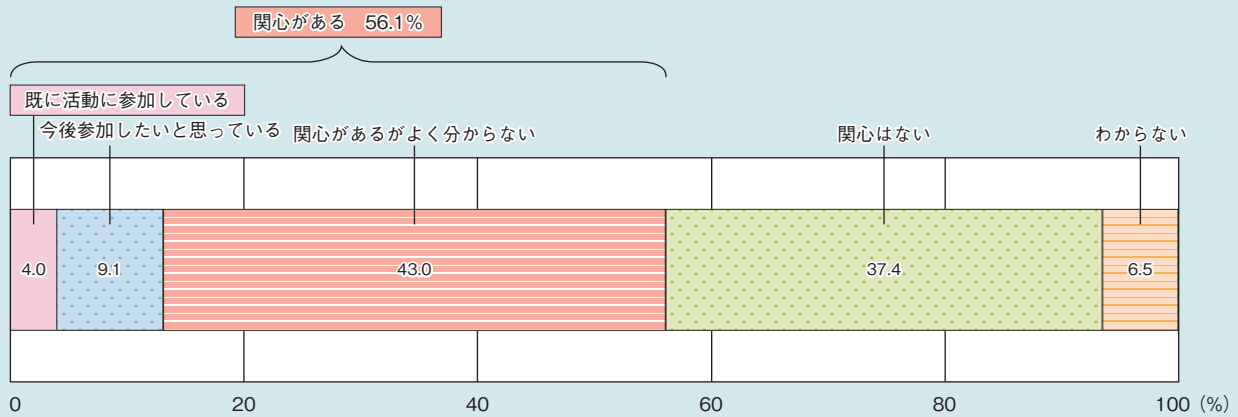
意識について、韓国、アメリカ、ドイツ、スウェーデンと比較してみると、ボランティア活動その他の社会活動への参加状況は、日本は参加している割合(31.3%)が韓国に次いで低いことがわかった(図1-2-5-7)。

また、ボランティア活動その他の社会活動に参加していない人に対して参加しない理由を聞いたところ、「関心がないから」という人の割合(15.9%)は他国と比べて極めて低く、「時間的・

(2) 国際比較でみる日本の高齢者の社会活動に対する意識

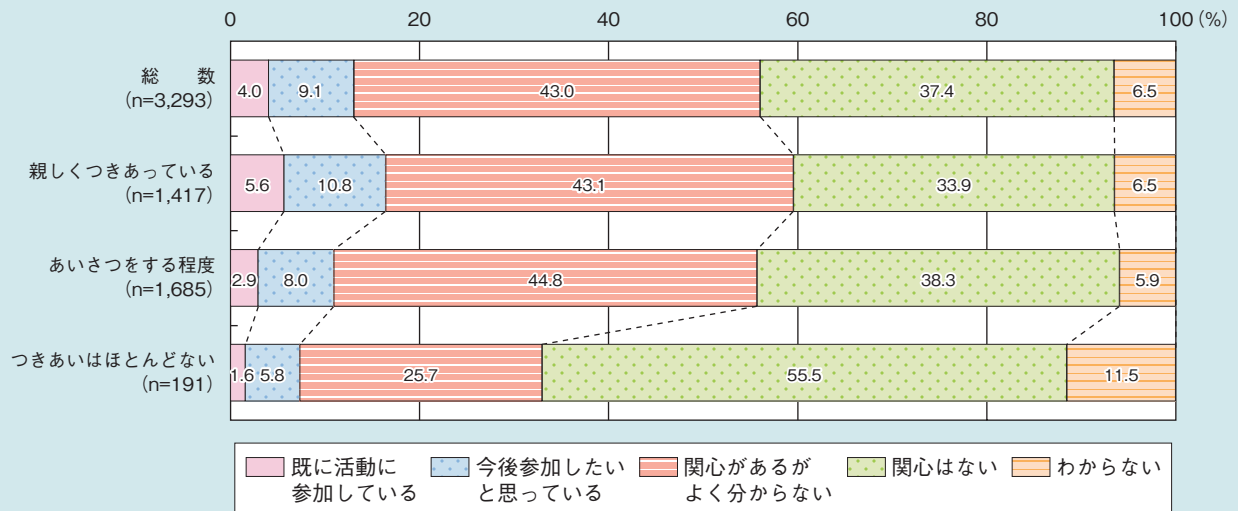
60歳以上の高齢者の社会活動への参加状況と

図1-2-5-4 NPO活動への関心の有無



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成20年)
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-5-5 NPO活動への関心の有無(近所の人たちとの交流の有無別)



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成20年)
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

精神的ゆとりがない」、「健康上の理由、体力に自信がない」という理由が多かった（それぞれ32.2%、31.5%）（図1-2-5-8）。

このように、日本人は、他の4か国と比較して「社会活動に関心はあるものの、時間的・精神的ゆとりや健康上の理由から参加していない」人が多いということがうかがえる結果になった。

(3) 高齢者の学習活動

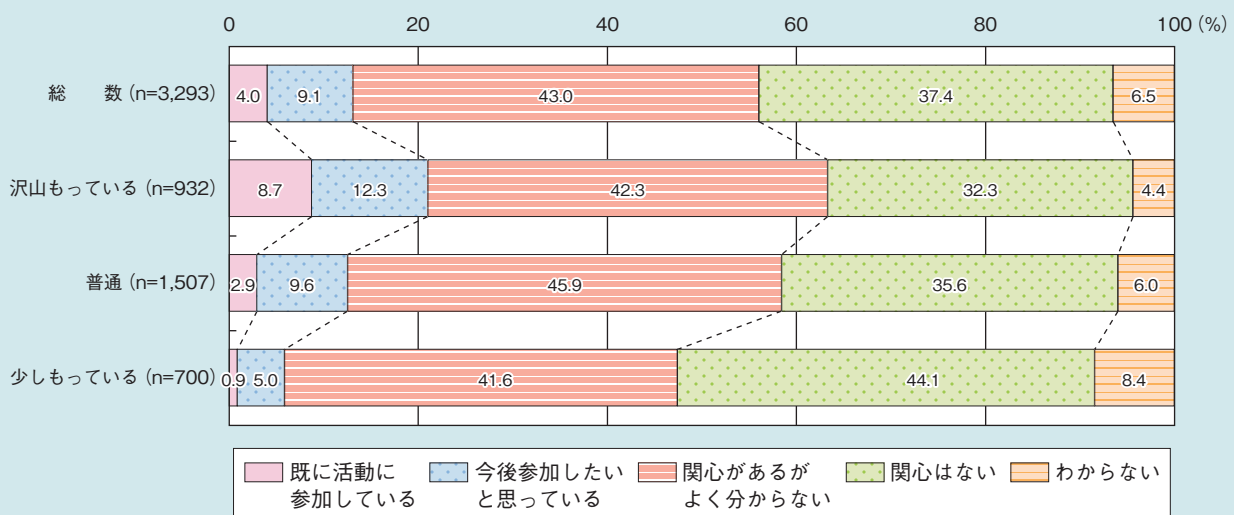
60歳以上の高齢者の学習活動への参加状況についてみると、何らかの学習活動に参加してい

る人の割合は17.4%となっている。具体的な活動では、「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」が7.6%、「公共機関や大学などが開催する公開講座など」が4.8%などとなっている（図1-2-5-9）。

(4) 若い世代との交流の機会への参加状況

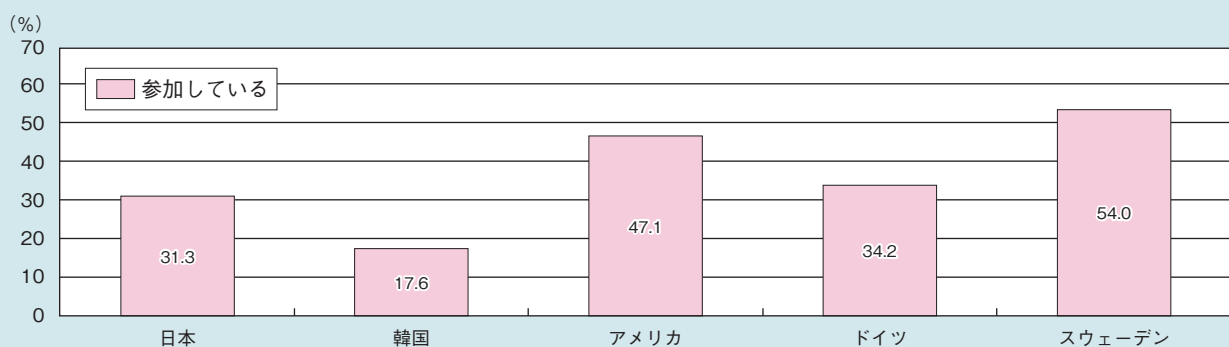
60歳以上の高齢者の若い世代との交流の機会についてみると、なんらかの交流の機会がある人の割合（「よくある」、「たまにある」と回答した人の計）は平成20年（2008）で54.9%となって

図1-2-5-6 NPO活動への関心の有無（親しい友人の有無別）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
（注）調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-5-7 ボランティア活動その他の社会活動への参加状況



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成22年）
（注）調査対象は、60歳以上の男女